

ARCH

SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

11

2025.07



人生を診る、ともに歩む。

認知機能障害や手足のしびれなど、多種多様な症状を引き起こす脳や神経の不調。そんな症例に日々対応している脳神経内科では、診断・治療のために二人一人に向き合った対応が行われています。今回は、脳神経内科の主任診療科長である眞島先生にお話を伺いました。

脳神経内科
主任診療科長
眞島 卓弥
MASHIMA TAKUYA

- 神経内科専門医・指導医
- 総合内科専門医

脳神経内科の役割や、済生会新潟県中央基幹病院ならではの特徴などを教えてください。

脳神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉など脳神経系の臓器に関連する疾患を扱う診療科です。頭痛、めまい、手足のしびれ、歩きにくい、認知機能の低下など、受診する患者さんの症状はさまざまで、主に脳卒中や脳梗塞、脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症といった病気の診療を行っています。

県央地域で脳神経内科の入院病床を持っているのは当院だけです。特に神経難病については、病院や診療所に通院している患者さんも多いのですが、病状の進行や合併症などで入院が必要になった場合は当院で受け入れています。また、認知症やパーキンソン病関連疾患などの診断に役立つ核医学検査を行うことができるのも特徴の一つです。救急の神経疾患については、発症直後の脳梗塞に対し、血栓を溶かす薬を使う治療は当院でも可能です。ただしカテーテルで血流を再開させる治療については対応していないため、治療適応のありそうな患者さんはそれが可能な施設に搬送される場合もあります。

日々、どのような業務にあたっていますか。また、県央地域の患者を診ていく上での課題や意気込みを教えてください。

診察にあたっては、患者さんの症状、病歴、職業や家庭環境についてなど、さまざまなことをお聞きする問診が重要になります。さらに脳神経内科の場合は、全身の運動機能や感覚などを網羅し、どこに異常があるのかを推定する神経学的検査を行い、問診と組み合わせで診断に迫っていきます。CTやMRIで分かる病気もありますが、それ以上に問診や神経学的検査から有用な情報が得られる場合があるので、初診の患者さんの診察にはある程度の時間を要し、患者さんの協力も必要となります。

脳神経内科は他の診療科との連携も多いです。まず脳神経外科とは同じ脳神経疾患を扱う関係でし、整形外科、眼科、耳鼻科、他の臓器を扱う内科などの病気と共通した症状も多いため、他の科から患者さんを紹介されることがあったり、紹介することもあります。また、ある程度状態が落ち着いた患者さんには、お住まいに近い医療機関へ紹介する場合があります。こうした連携を強化するためにも、県央地域の脳神経内科と当科で定期的な勉強会が続けています。在宅療養を希望される神経難病の患者さんについては、地域の保健師や看護師、リハビリ療法士、薬剤師、ケアマネージャーなどと連携し、患者さんがなるべく地域で自分らしく生活が送れるように力を入れています。在宅療養される患者さんのご家族の負担を軽減するためのレスパイト入院というのも行っています。ただ県央地域の課題として、在宅療養が難しくなった神経難病の患者さんが、退院後に長期療養できる先がなかなか見つからないという現状があります。

最近では、脳神経領域の病気に対応する新しい薬がどんどん出てきています。例えばアルツハイマー型認知症の初期段階や、前段階の軽度認知機能障害の患者さんに対しては、新しい薬を使うようになりました。今後も地域の医療関係者の方々と協力しながら、県央地域で治療を続けていくことができる体制を作っていきたいと思っています。



脳神経内科 部長

小澤 鉄太郎

OZAWA TETSUTARO

- 日本内科学会認定内科医
- 日本神経学会専門医(脳神経内科専門医)
指導医



脳神経内科の地域医療をつくる

脳神経内科の小澤鉄太郎と申します。私は平成16年から平成26年までは新潟大学医歯学総合病院に勤務しました。その後、新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院に勤務し、令和5年4月1日より旧県立燕労災病院に赴任した後、令和6年3月の開院と同時に済生会新潟県央基幹病院に勤務しています。脳神経内科では脳卒中やその他脳に生じた病気、さらに脳と繋がった神経に生じた病気を診察し治療に当たっています。また、治療の難しい神経難病の患者さんへは、病院スタッフならびに地域の医療保健福祉分野の職員皆様と連携し、医療サービスの提供を行っています。

話しは変わりますが、最近趣味で始めたDIYのために工具類を買いそろえました。そのほとんどは燕三条製のもので、使い勝手の良さや精密さに驚きや感動を覚えています。それらを手がける金物の職人さんたちは、使う人のことを想って丁寧にものづくりをされているのだらうと想像しています。私も患者さんを思いながら、確かな知識と思いやりの心で脳神経内科の地域医療をつくって行きたいと思います。

脳神経内科診療を行う上で大切に思っていること

県央基幹病院の外来では、パーキンソン関連疾患や筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患、認知症を主体に診療を行っています。こうした神経変性疾患は完全な治癒はまだ難しい疾患が多いです。従って、薬で症状をうまく緩和しながら、長く付き合っていく必要があります。

長い人生の中ではライフステージの移り変わりや家族構成の変化もあります。また、それぞれの段階で、ご本人が目標や求める事も変化していきます。治療に工夫を凝らすことで、人生の満足度が上がることが大切だと考えています。また、病気と長い付き合いになるのはご家族にとっても同様です。ご家族も同じだけの時間を病気と付き合わなければいけません。ご本人の病気の管理だけではなく、介護者の負担や生活の質にも目を向け、無理が無い環境作りを行うことも重要な課題です。

病院スタッフのみならず、当院の周辺地域の福祉サービスも十分に利用し、関連スタッフと連携を取りながら、診療を進めています。

脳神経内科 部長

佐藤 朋江

SATO TOMOE

- 神経内科専門医
- 神経内科指導医
- 総合内科専門医



脳神経内科 医員

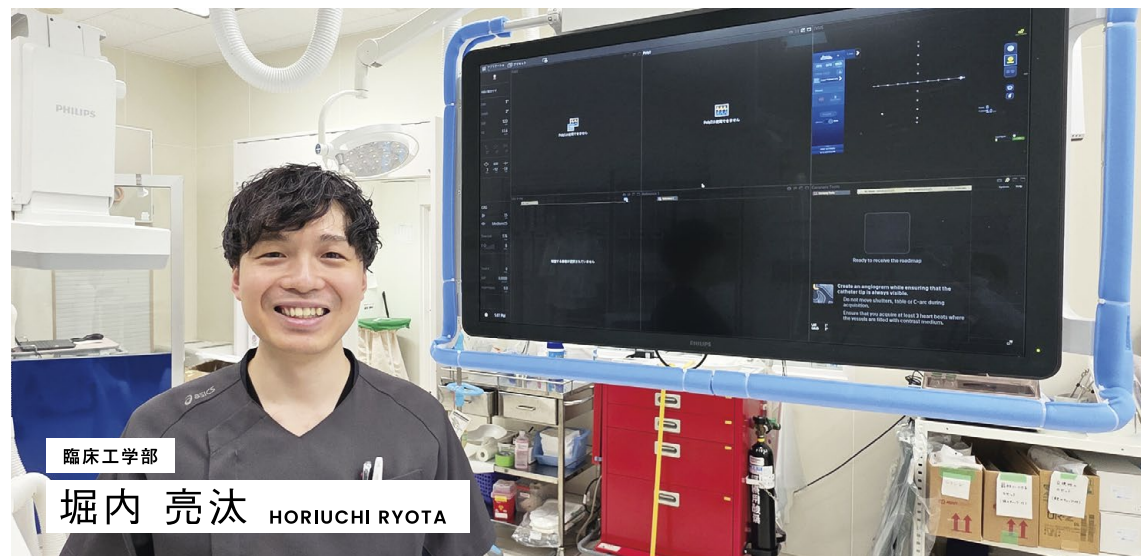
林 亮佑

HAYASHI RYOSUKE



治らない病気と上手く付き合う

脳神経内科は脳だけではなく、脊髄や手足の神経、筋肉に至るまで、幅広い病気を扱います。近年神経疾患の治療に関する進歩は目覚ましく様々な新薬が登場していますが、完全に病気が良くなるということは難しいことが多く、それが故に難病とされている病気が大半です。例えばパーキンソン病は、この20年で薬剤の種類が倍増し、ハネムーン期という元気に生活できる時期が長くなりましたが、最終的にはどれほど薬剤を使っても自力で歩けなくなったり、誤嚥性肺炎を起こしたりする時期がやってきてしまいます。このような神経難病では、健康寿命を伸ばす、つまりは家で自立して生活できる期間を延ばすために、必要十分な治療やりハビリを適切に行うことが重要となります。高齢化に伴い、これらの病気は難病とはいえ決して珍しい病気ではなくなりつつあります。地域のかかりつけ医と協力しながら患者様のお役に立てれば幸いです。



臨床工学部
堀内 亮汰 HORIUCHI RYOTA

臨床工学技士は医療従事者の中でも多くの分野で活躍している職種です。そのため、施設の勤務形態によりですが、

●この仕事のやりがいや特徴を教えてください。

幼い頃から親族のお見舞いで病院に行くことが多く、高校生の頃には医療従事者になりたいとなんとなく考えていました。が、職種を決められずにいました。そんな状況でとある学校のホームページを見たときに、臨床工学技士という職種を初めて知りました。医療機器のスペシャリスト、縁の下力持ちのような存在であることが書いてあり、興味を惹かれたことがきっかけです。

●この仕事を選ばれたきっかけ、経緯を教えてください。

厚生労働省が定める「臨床工学技士法」が1987年に施行され、その中で臨床工学技士とは生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う者と定義されています。臨床工学技士の役割は施設によって様々です。当院では透析、ICU、手術室、心臓カテーテル、植込み型心電電気デバイス、機器管理それぞれに携わっています。また、看護師向けの医療機器の勉強会では講師役を担当することもあり、一言で言えば医療機器のプロフェッショナルです。

●職種の普段の業務について、具体的に教えてください。



●将来の目指す姿や目標はありますか？
私が普段心がけていることは、「指示の理由を考える」ということです。医師からの指示を鵜呑みにして行動するのではなく、意図を自分で理解して行動することを意識しています。そうした行動をすることで、インシデントを防いだり、よりよい医療を患者さんに提供できると考えています。

様々な臨床経験が得られることがメリットだと思います。また、当院を例に挙げると、開院時には新しい医療機器、機器管理システムの選定、開院してからは看護師向けに除細動器や人工呼吸器の勉強会を行うなど、医療機器に関して充分な知識と経験がないとできない業務も臨床工学技士が担当します。重大な役割ですが、その分やりがいや達成感のある業務だと思います。

「堀内さんのお気に入り」

趣味はダーツです。
飲み会の後でダーツバーに行ったことがきっかけです。
一人で練習するのも対戦するのも好きです。



FAVORITE

済生会新潟県央基幹病院の各部門について、
その役割や日々の業務をご紹介します。

県央TEAMS

輸血・検査部



【迅速かつ正確な検査でより良い医療を】
輸血・検査部は検査を専門とした部門です。血液、尿、体腔液などの検査を行う検体検査と、心電図や脳波、エコー検査などの生理機能検査が主な業務となります。このほかにも、微生物検査や輸血が必要となった時に、輸血用血液との適合を調べたりもしています。検査データは診断や治療をする際の指標、経過観察の判断材料となりますので、迅速かつ正確な検査でより良い医療ができるように心がけています。

【何気ない症状にも要注意】
発見が遅れがちな病気の中に、心臓弁膜症というものがあります。心臓に4つある弁のうち、いずれかに異常が起きてしまえば心臓に大きな負担がかかってしまう病気です。病気が進行するにつれて息切れや動悸、足のむくみなどの自覚症状が出てきます。しかし、疲れやすさなどの症状のため、運動不足や年齢の影響と思われがちです。もし息切れしやすくなったと感じたら、一度かかりつけ医に相談してみてください。

〈地域に向けてメッセージ〉

当検査部では日中はもちろんですが、夜間休日でも迅速検査が可能な体制を整えています。県央地域の皆様が安心して生活できるよう、検査の力でお手伝いしてまいります。



今知りたい

Q&A

輸血・検査部Q&A

Q 採血はたくさん血を採るのでしょうか？

A 少しの量で検査ができます。検査内容によりますが、多くの場合は10～20mLで大きじ1杯程度と少量です。

Q 心電図は何を見ているのですか？

A 心臓は動く時に電気を発生させます。その電気の形や向き、タイミングなどを見ている。



登録医のご紹介



さかいファミリークリニック(燕市)

〈院長〉坂井 勇仁 様



● 地域にとってどんなクリニックを目指していますか？

自己免疫疾患のプライマリーケアから本格的な治療まで一貫して出来るように努めています。また、内科がかりつけ医としての役割も果たしていきたいと思っています。

当院で治療が困難な患者さんの多くは、県央基幹病院に紹介させていただき御加療いただいております。当院の診療は貴院との協力なしでは成り立たないと感じております。これからも連携をよりよくお願い申し上げます。

● 日々の診療で心がけていること、大切にしていることはありますか？

関節の痛みがとれず、整形外科で検査をしてもたら関節リウマチの反応が出た、という方がいらっしやることが多いです。50〜70歳の女性に多い傾向があります。当院では70歳代にピークがあり、男女比は7…3です。

関節リウマチは遺伝的背景のある方に、ストレスや喫煙、歯周病などの外因が加わって発症します。疾患感受性遺伝子は100個以上みつかっていますが、これは本人の努力ではどうしようもない部分です。しかし、歯周病や腸内細菌叢との関連が指摘されており、定期的な歯のクリーニングと腸内環境を良好に保つ(排便コントロール)ことはお勧めしています。

● まず、御クリニックについて教えてください。

当院は2014年9月に内科・リウマチ科として開業しました。リウマチをはじめとする自己免疫疾患の治療を中心としたクリニックを立ち上げたいと考え、生まれ育った燕市で開業することになりました。関節リウマチについては病院で行われている治療に準じた治療が可能です。また、関節注射も行っています。

● 日々の診療で心がけていること、大切にしていることはありますか？

患者さんには病気になる前と同じレベルの生活が送れるようになって欲しいと思っています。そのためどのような治療が必要か、患者さんが納得したうえで決めるようにしています。懸命に治療し努力している患者さんに応えたいと思い、患者さんの満足度が高くなるように努めています。



さかいファミリークリニック【内科、リウマチ科】

〒959-1274 新潟県燕市柳山777-1

診療時間／午前9:00〜12:00 午後15:00〜18:00

TEL／0256-61-7737

アクセス／県道18号線沿い。小池小学校から分水方面に向かって1分程度。

休診日／水曜、土曜の午後・日曜・祝日(第2水曜日は午前も休診)

HP／sakai-family-clinic.com

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00〜12:00	●	●	●	●	●	●	
午後	15:00〜18:00	●	●		●	●		

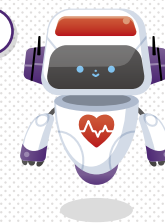


今回は患者さんが入れない「staff only」な場所へご案内!

ケン オー
KEN-O くん

院内ウォーキング

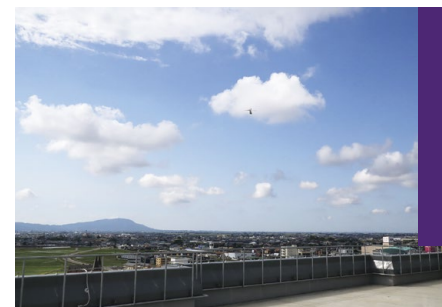
〈HOSPITAL WALKING〉



ケン オー
KEN-O くん

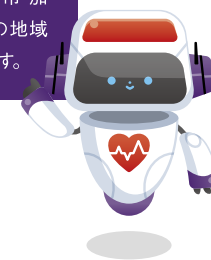
済生会新潟県央基幹病院の新米ロボット。県央地域のみなさんが健康で楽しく暮らしていくためのお手伝いをするべく、日々勉強中。このコーナーでは、KEN-Oくんが院内をまわり、院内設備の紹介や各受付への行き方などを紹介しています。

ヘリポート



屋上にヘリポートが設置されている病院は限られており、県央医療圏では唯一当院だけです! 県央医療圏とは「三条市・燕市・加茂市・田上町・弥彦村」5つの地域の医療圏のことを指しています。

ヘリポートは最上階の9階にあり、天気の良い日には弥彦山が一望できます。



普段は主にドクターヘリの離着陸に使用されています。他にも、防災ヘリコプターの離着陸および傷病者引継ぎ訓練も行っています。



多い時で1か月に5件程、ドクターヘリで患者さんが搬送されています。(年平均:3件/月)



ヘリポートから救急外来まで直通のエレベーターがあり、迅速に患者を処置室へ運ぶことができます。

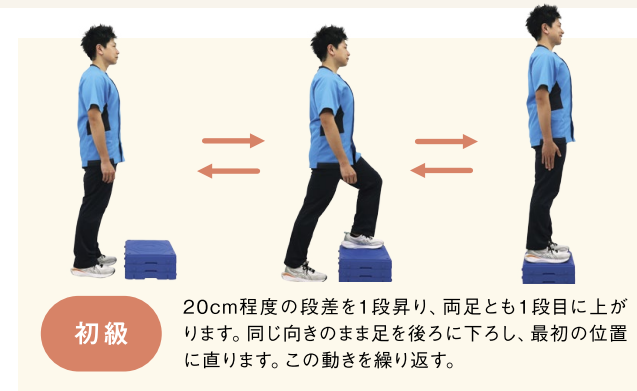


当院のある三条市に隣接している燕市の小学生5人が「子ども記者」として当院の取材に来てくれた時に記念撮影をしました。

リハビリスタッフが教える

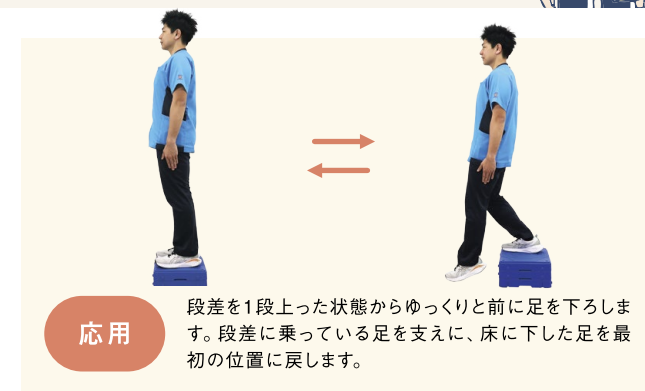
段差を使った体操

段差を使った運動は平地を歩くよりも運動強度が高く、有酸素運動としても効果があります。片足で踏み切るため、バランス練習にもなります。自宅の階段(おおよそ20cm)を使用すれば、器具を用意する必要もなく、手軽かつ効率的に始めることができます。まずはやってみましょう。



初級

20cm程度の段差を1段昇り、両足とも1段目に上がります。同じ向きのまま足を後ろに下ろし、最初の位置に直ります。この動きを繰り返す。



応用

段差を1段上った状態からゆっくりと前に足を下ろします。段差に乗っている足を支えに、床に下した足を最初の位置に戻します。

POINT

段差を上がり下がりするときにゆっくりを意識すると効果的です。最初は手すりに掴まって行いましょう。

01 REPORT

新たに13名がICリンクナースに認定されました



13名の看護師が、院内感染を防ぐための重要な役割を担う「ICリンク」に認定され、3月28日に授与式が行われました。

ICリンクは、感染管理室（以下、ICT）から感染管理に関する知識を学び、実践モデルとして、感染対策が実行できることを目指しています。また、現場で起こる問題をICTと連携して改善に取り組み、部署での感染対策を強化しています。

今後は看護師だけでなく、他の職種にも感染管理の知識を持ったスタッフを増やすことで、より安全な医療環境を目指していきます。今年度は、看護師・ナースアシスタント・歯科衛生士・作業療法士・理学療法士・臨床検査技師など多職種17名の職員が受講予定となっています。

02 NEWS

医療機関の皆様へ

連携強化診療情報提供料の運用を開始しました



お問合せ／患者サポートセンター 0256-47-4700(代表)

当院では、連携する医療機関から診療情報提供書、診療情報提供依頼書等を送りいただいた場合に、円滑な医療連携を図るため、連携強化診療情報提供書の運用を開始いたしました。この情報提供により、患者さまの診療状況が適切に共有され、治療の質が向上し、医療機関間のスムーズな連

患者サポートセンターからのお知らせ

携が可能になります。今後とも、迅速かつ的確な情報提供に努めてまいりますので、本運用につきましてご理解とご了承を賜りますようお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、患者サポートセンターまでお問い合わせください。



済生会の「無料低額診療事業」のご案内

当院では社会福祉法に基づき、医療費の軽減・減免を行っております。療養生活において経済的な事情がございましたら、お気軽に患者サポートセンター(2階)窓口にお声掛けください。医療ソーシャルワーカーが対応いたします。

【お問合せ】患者サポートセンター

TEL.0256-47-4700 (代表)

QUESTION

VOICE Q&A

ご利用者の皆さんからいただいたご意見・ご質問にお答えします。

Q 1

場所が分からない時は、誰に聞けばいいですか？

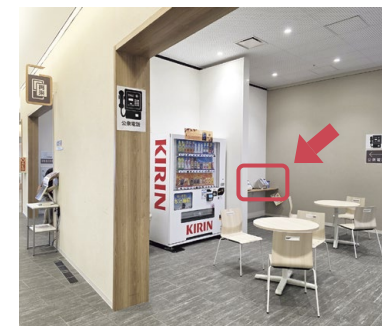
正面玄関に入りますとコンシェルジュが常駐しています。「初めて受診するから場所が分からない」と心配な方も多いと思いますが、コンシェルジュが丁寧に対応いたしますのでご安心ください。また、定期的に受診をされている方は再来受付機へご案内いたします。お困りごとがございましたらぜひコンシェルジュにお声がけください。
(コンシェルジュ常駐時間／7:45～16:00)



Q 2

公衆電話はどこにありますか？

1階の休憩スペースにございます。休憩スペースは再来受付の奥にございます。となりにはタクシー呼出専用電話があり、通話無料ですので小銭がなくても簡単にタクシーを呼ぶことができます。ご利用可能なタクシー会社は以下の通りです。



〈ご利用可能なタクシー会社一覧〉

日ノ丸観光タクシー

三条タクシー

中央タクシー

エスタタクシー

中越交通

燕タクシー



済生会新潟県央基幹病院はご利用者の皆さまの声に対応しております。

済生会新潟県央基幹病院では、いただいたご意見をもとに、皆さまにより快くご利用いただける病院を目指し、日々改善を続けて参ります。お気づきの点がございましたら、1階エスカレーター前・2階待合ロビー脇に設置されておりますご意見箱に、皆さまの声を投函ください。よろしくお願いいたします。



SAISEIKAI NIIGATA KENOH KIKAN HOSPITAL

ANSWER

〈今月号の表紙の写真について〉

あの映画のワンシーン?ではなく、協調運動機能を診るための神経学的検査の一つです。
例えば小脳機能が障害されると指を目標に向かってスムーズに動かすことができなくなります。



社会福祉法人

恩賜
財団

済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃5001番地1

TEL.0256-47-4700 FAX.0256-33-8808

<https://www.kenoh.saiseikai.or.jp/>

病院のサイトには
右記二次元コードより
アクセスしてください

